



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2019.7

No. 424

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



夏の星空物語と鳥星座

星のソムリエ 村上将之(国分寺市)

さあ、星空観察をするのに適した夏です。バードウォッチングに使っている双眼鏡やスコープを星空に向けてゆったりと宇宙旅行を楽しみましょう！

● 夏の星座や星空全体のお話し



夏の星空と言えば何を思い浮かべますか？ 天の川、七夕、夏の大三角、さそり座、いて座などなどたくさん見どころがあります。

天の川(上：モンゴルのグランザドガドにて撮影)はミルクがこぼれたように見えるところから英語ではミルキーウェイと言うそうです。日本でも都会の街灯を離れた郊外や標高の高い高原などに行く綺麗な見ることができます。初めて天の川を見た人はじっと留まった雲のように見えて、「その雲邪魔だなあー、早く流れてくれないかなあ」と思うほどです。



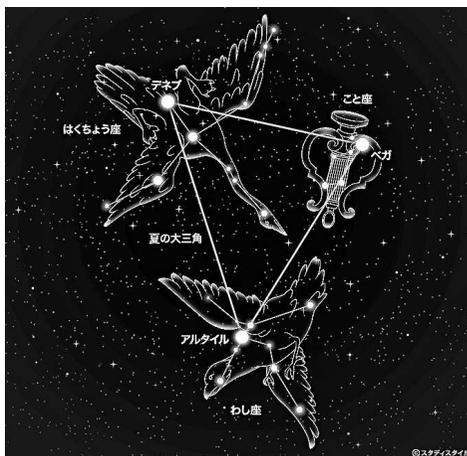
七夕は皆さんご存知のおりひめ星とひこ星が天の川を挟んで年に1回逢うことが許され

た星空物語ですね。おりひめ星はこと座の青白い1等星のベガ、ひこ星はわし座の1等星のアルタイルのことで、これらは天空上でほんとうに天の川を挟んで位置しています。

ここでひとつ面白いお話しを。実は、おりひめ星とひこ星同士はスマホでお話しするのにも一苦労するんです。おりひめ星とひこ星の2つの星は距離にして16光年離れています。ということは、ひこ星が「もしもし、おりひめ星さん。こんにちは！」って電話しても、それがおりひめ星に届くのは16年後。もしも

2人がともに20歳だとしたら、36歳になったおりひめ星が「あら、ひこ星さん。元気してる？」と返して、それを受け取るひこ星は52歳に。ちょっと恋愛物語って雰囲気ではなくなくなってしまいます。ちなみに七夕物語では2人は恋人関係ではなくて夫婦なのです。

有名な夏の大三角(下図：©スタディスタイル)は、前述のおりひめ星とひこ星に、はくちょう座の1等星のデネブを加えた3個の明るい星で構成されます。星座早見盤をお持ちでしたらまずはこの夏の大三角を探してみてください。はくちょう座は天の川の中にどっぷりと浸かっているのが、双眼鏡で見るとため息が出るほどたくさんの星々でこの星座が埋め尽くされているのが分かります。



● はくちょう座

はくちょう座は、夏の時季は天頂付近の高い位置で見ることができる大きな十字形の星座です。沖縄県あたりまで行くと見られる南十字星に対して、この十字は北十字星と呼ばれています。その形は羽を広げた大きな白鳥の姿そのもので、どなたでも間違いなくその星座を見つけることが出来るでしょう。



はくちょう座はギリシャ神話にも登場する古くからある星座（紀元前1,200年ごろ）で、大神ゼウスが美しいレダ妃に近づくために

変身した姿なのです。ちなみにゼウスは大の女好きで有名です。そもそも、ギリシャ神話そのものが男女関係や嫉妬に関する短編小説の集まりなのです。

話を戻して、そのとても美しいレダはある日のこと森の泉で沐浴をしていました。その沐浴シーンを天空からひとりの男がじーっと見ていました。そうです、ゼウスです。ゼウスは姿を美しい白鳥に変えて、レダのそばに天空から舞い降りてきました。レダはそれがゼウスだとも知らずに抱き寄せてしまうのです（画：レオナルド・ダ・ヴィンチ）。話は飛びますが、レダはその後しばらくして二つの卵を産みます。その卵のひとつから、双子の男の子が生まれるのです。名前はカストルとポルックスといって、ふたご座の兄弟が生まれたのです。このように星座の神話を読み解いていくと星座の関係が覚えられますよね！

はくちょう座を構成する星の中に、是非ともスコープ（30～50倍）で見たいだけでなくとても綺麗な2重星があります。全天で最も美しい2重星といわれている「アルビレオ」です。それははくちょう座のくちばしに位置するところに輝いています。アルビレオはオレンジ色の3等星とブルーの5等星からなる2重星で、その美しい色の対比はしばらく見ても飽きないほどです。宮沢賢治の小説「銀河鉄道の夜」には、まるで宝石のトパーズとサファイアみたいだと書かれています。

● わし座

わし座も古い時代から存在する星座の一つです。ギリシャ神話ではたいへん美しいイケメン少年ガニメデを神々の国オリンポスの山

頂へさらっていった驚として伝えられています。そしてその驚こそ、そうです、前述の大神ゼウスがまたもや変身した姿だったのです



（画：レンブラント）。何度も言いますがゼウスは美しい人が大好きなのです。それが女性であろうと男性であろうと…。ちょっと今風なのでしょうか！

ゼウスに逆らえるものは誰もいません。ガニメデは諦めるしかなく、オリンポス山で毎晩開かれる宴の席で神々にお酒を酌んでゼウスに仕えて過ごしたそうです。

この美しいイケメン少年ガニメデは最終的には、みずがめ座として秋の夜空に昇っています。星座絵図に描かれているみずがめ座をよーく見て下さい。なるほどイケメン少年ですね。

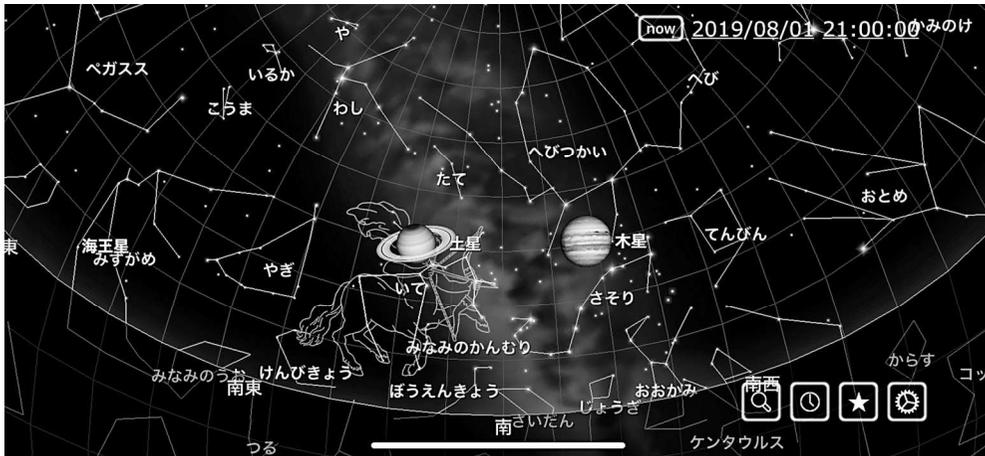
● この夏の星空ピックアップ

今年の夏の夜空は太陽系第5惑星の木星と第6惑星の土星の観望をお勧めいたします（次ページ上図：©アストロアーツ）。

観望しやすい時間帯の夜の9時前後に、南の空の見やすい位置に明るく輝くこれら2つの惑星にバードウォッチングで使っているスコープを向けてみてください。

まずは木星。倍率を50倍くらいにすると、木星本体の縞模様が2～3本はっきりと見えると思います。そしてその木星の周りにはなんとガリレオ4大衛星までもが確認できるはずですよ。時間を2時間くらいおいて再度観望すると、その4つの衛星の位置関係が変わっていることまで分かると思います。

次に土星。皆さまがきつと長年見たかった環っかが漆黒の視野の中に浮んで見えます。初めて土星を見た多くの方が「えっ、うそー。かわいいー！」って声を発すると思います。



春の三番瀬、シギ・チドリ事情

杉本秀樹（習志野市）

5月4日、定例の三番瀬探鳥会（東京）でのこと。人でごった返す潮干狩り場よりさらに沖の干潟にシギ・チドリやカモメ達が集まっている。漁業権のある区域で漁師さんしか貝を採らないので一般人は入らないから、いるのは鳥を見る人たちだけである。牡蠣でできた島(カキ礁)の周りにはオオソリハシシギが集まっている。例年なら潮干狩りが始まると鳥たちは一斉に飛び立って谷津干潟に避難して来るのに、今年はなんだか様子が違う。

午後になって潮が満ち始めると潮干狩りは終わりになる。人がいなくなった浜にシギ・チドリたちが大挙してやって来る。最初がオオソリハシシギやチュウシャクシギ、続いてダイゼンやハマシギの群れなど。これらが掘り返された浜で盛んに採餌を始めた。自分たちで掘らなくても餌を取り放題ということらしい。実際に潮干狩りをしていた人に尋ねるとゴカイなどもたくさん出てくるそうだ。それを労せずしてありつけるというのが理由なのだろう。人がいなくなってから浜が潮に浸かるまでが彼らのディナータイムである。人間の営みを鳥たちが巧みに利用しているわけだ。キョウジョシギが走り回っているのを見たことはあったが、これほどの種類が一度にやっているのを見たのは初めてだった。ほかの日にはミヤコドリもやって来て撒いたアサリを食べていたそうだ。

ただし、予兆がなかったわけではない。昨年の4月1日、やはり探鳥会でのこと。潮干狩りの準備でアサリを撒くために浜にトラクターを入れて耕していた。その後ろをユリカモメやハマシギ、ミユビシギなどが群れて餌をついばんでいた。仕切りの網越しに見ている私たちのすぐ近くまで来るので望遠鏡はいらない。参加者の皆さんは飽きずにいつまでも見ていて、その場をうごかないからそのまま1日が終わるかと思うほどだった。しかし、このあとトラクターが濡(みお)の軟弱な砂地にはまり、脱出できないまま潮が満ちてきて水没してしまった。そちらの印象が強くて鳥の振る舞いには気が回らなかった。

三番瀬ではスズガモが小型の船を警戒するのは銃猟が行われていた頃の名残だと思っていたが、それほど愚かではないらしい。私たちが気づかない間に鳥たちの生活様式は変化して、しかも、人間の社会を反映しているように見える。歳々年年、鳥同じからず・・・といったところであろうか。



(写真提供 田久保 晴孝さん)



野鳥情報

寄居町鐘撞堂山 ◇12月15日、大正池でゴイスギ2、アオサギ2、カイツブリ5、キセキレイ10。登山道付近でイカル16、ツグミ3、メジロ、スズメ、ムクドリ、エナガ、カワラヒワ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ノスリ、ヤマガラ4、シジュウカラ7、コジュケイ、オナガ3、ハシボソガラス、ハシブトガラス（村越百合子）。

さいたま市桜区田島、南区境外 ◇2月25日、鴨川のマガモ、カルガモ混群中にヨシガモ♂1。彩湖北端でユリカモメ30、オオバン20、カンムリカイツブリ20、ホシハジロ300、キンクロハジロ150、ツグミ、シメ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ、モズ、ムクドリ、シジュウカラ、メジロ、コゲラ、エナガ、ベニマシコ♀2など。ウグイスの囀り、今季初認（鈴木紀雄）。

さいたま市桜区塚本 ◇2月25日、大久保農耕地B区で下面の縦斑が細く全体に白っぽい（亜種シロオオタカと言ってもいいような）オオタカ若鳥1。畑地でタゲリ40+、ミヤマガラス60、ノスリなど（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区岩槻城址公園 ◇2月26日、池でマガモ10、アオサギが3巣ほど営巣。ヤマガラ、シジュウカラ、コゲラ、カケス、アオジ、エナガ、シロハラ、ウグイス、ルリビタキ♂、ツグミなど（鈴木紀雄）。

蓮田市黒浜 ◇3月2日、東埼玉病院東縁でエナガ、シジュウカラ、コゲラ、ヤマガラ、ウグイス、カケス、キジバト、キクイタダキ2（鈴木紀雄）。

久喜市菖蒲町小林 ◇3月2日、ニューナイスズメ約20。チョウゲンボウ♀通過（鈴木紀雄）。

蓮田市閩戸 N36.0083 E139.6330 ◇3月5日、コジュリン（右上写真）が草叢から姿を現した。数羽いるようだ。3月15日、ホオアカ♂が飛んできて、近くの枯草に止まった。一瞬の出来事だった（関口明宏）。



蓮田市西城沼公園周辺 ◇2月27日、シロハラ1Wがナラ林で落ち葉を返していた。カケスが枝移り。カワセミが水面を飛んだ。3月8日、ジョウビタキの声が屋敷の庭から。シロハラが植木畑で採餌。ムクドリの群れが2～3羽と小さくなった。ケージの中のシチメンヨウの♀を写真に撮っていたら、♂が背と尾羽など全身の羽を逆立てて威嚇してきた。その他ツグミ4、ハクセキレイ4、メジロ2等。3月18日、釣り人の後ろにコサギ1。おねだりしているようだ。カワセミが水面を右に左に。シロハラ1、ナラ林で採餌。2羽のメジロはいつも一緒だ。3月27日、レンギョウの花びらを全てヒヨドリが食べてしまった。スズメ1が、軒先で寂しそうに鳴いていた。メジロが桜の花を舐めていた。林から急にオオタカが飛びだした。3月29日、ヒヨドリが数羽、畑のキャベツを美味そうに食べていた。シジュウカラの群れにコゲラが1、忙しく桜の幹をつついていた。陽だまりの灌木にスズメ8と一緒にツグミ3。久しぶりにカルガモ11。釣り人がいない湖畔にコサギ1、ジツとしていた。傍らをカワセミがスーッと通り過ぎた。4月1日、民家の垣根でジョウビタキ♂1。4月3日、シジュウカラよりも太い声で「フィッフッフッフ」。エナガだった。カルガモ8が草原で草を採食。他にカワセミ1、メジロ13、シジュウカラ14、ツグミ2。4月7日、カケス2、ツグミ2、キジバト5、ハクセキレイ2、モズ1、カルガモ3、シロハラ1。（長嶋宏之）。

桶川市若宮 ◇3月9日午前9時30分、自宅北側のサクラの木でシメ10数羽が新芽を啄ばんでいた。木に近づくとシメは次から

次へと飛んで行った。北の国への渡りの途中なのか。3月12日午前8時、今度はシメ5が自宅南側のケヤキの枝で「ジー」とさえずりながらなにかを啄ばんでいた（立岩恒久）。

さいたま市緑区高畑 ◇3月15日午後1時45分頃、ツバメ1飛ぶ（藤原寛治）。

さいたま市西区三橋総合公園 ◇3月17日午前6時30分～7時30分頃、鳥友S氏から情報を貰っていた マミチャジナイを見てきた。当初は三室探鳥会の後での予定だったが、公園なので人影の少ない朝早くの方がいいと判断。30分くらい観察して、あとの30分くらいは公園を探鳥。他にヒドリガモ、ハシビロガモ、パン、オオジュリンなど（大畑祐二）。◇3月26日、マミチャジナイ♀1W。落ち葉を掻き分けて何やら夢中で採餌。シメ2とツグミが2、桜の下で採餌。何を食べているのだろうか？桜の密を求めてか、カワラヒワ4～5が枝移り。柳の新芽にヒヨドリが群がり、少し離れた柳にゴイサギ成鳥1、幼鳥4が休んでいた。イソシギ1、ハクセキレイの若鳥1が河岸を忙しそうに歩き、法面にツグミとムクドリが多数。川にはカイツブリとカワウの夏羽が夫々1ずつ。調節池にダイサギ、コサギ、アオサギ、オオパン、パン、カルガモなど。空にツバメが気持ちよさそうに飛んでいた（長嶋宏之）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇3月17日、夏羽のカンムリカイツブリ1。採餌中なのか盛んに潜水を繰り返す。セグロカモメがゆったりと水面を飛び、繁殖羽のカワウが後に続いた。ヒドリガモ、オナガガモ、コガモ、ヨシガモ、マガモなどが順光で美しい。水際をハクセキレイが歩き、多数のオオパンが草を食んでいた。オオジュリンがヨシに止まり、夢中で採餌。側をカワセミが通過。桜の枝のジョウビタキ♀が愛くるしい。20±のアトリがケヤキの新芽を食べている。カワラヒワ5～6の側をコゲラが幹を登る。他にカイツブリ、キジバト、ヒヨドリ、ウグイス、アオジ、シジュウカラ、ツグミ、ムクドリ、ハシブトガラスなど（長嶋宏之）。

《 はみ出し行事案内 》

埼玉 Young 探鳥会（室内会）
鳥の消しゴムハンコを作ろう（要予約）
（初級編）

期日：**8月3日（土）**

集合：午前10時15分、埼玉県自然学習センター（北本自然観察公園内）。

解散：14時ころ、自然学習センター内で。

申込：日本野鳥の会埼玉のHPに掲載する専用応募フォームから（7月上旬掲載予定）。

定員：15名（応募多数の場合は抽選）。

参加費：1,200円（材料費込み）。

内容：鳥をモチーフとしたハンコを彫ってスタンプ、オリジナルのトートバックも作ります。若い方やお子様連れのご家族のお申し込みをお待ちしております。

その他：昼食をご持参ください。

鴻巣市大間一丁目 ◇3月19日午前7時45分頃、1羽のツバメがスイッ！今季当地初認（榎本秀和・みち子）。

さいたま市浦和区三崎 ◇3月20日午前11時30分、市民農園農上空をツバメ2飛ぶ（藤原寛治）。

川越市上戸 ◇3月24日午前5時50分、電線にとまってツバメ1が元気な声でさえずっていた。今年も元気に戻ってきてくれた（柴戸誠一）。

春日部市上大増新田 ◇3月24日、香取神社でツバメ2（野口保男）。

吉川市須賀 ◇3月25日午後1時30分頃、中川の土手でツバメ3、当地初認（富張勝弘）。

蓮田市西新宿4丁目周辺（元荒川） ◇3月28日、コガモ♀5♀6、カワウ1、カイツブリ1、ダイサギ1、メジロ2、ハクセキレイ1、ツグミ2、キジバト3、ムクドリ17+、スズメ15+、ヒヨドリ14、カワラヒワ1、ハシブトガラス1、ハシボンガラス3（長嶋宏之）。

表紙の写真

スズメ目ヒタキ科ノゴマ属コマドリ

昨年4月、渡り途中に立ち寄った県内平野部の公園でさえずっていました。

榮 武男（春日部市）



行事案内



コヨシキリ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：健康保険証、筆記用具、雨具、飲み物。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合、正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

熱中症が心配な季節となりました。体調を整え、睡眠を十分にとってご参加ください。探鳥会が始まったら、水分はこまめに補給しましょう。水筒は必携です。8 ページに、「探鳥会における熱中症対策ガイドラインについて」が掲載されていますので、ご一読ください。暑さ指数/WBGT 予報は、環境省の以下のサイトで確認できます。可能な方は、お出かけ前にご確認ください。

http://www.wbgt.env.go.jp/wbgt_data.php

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月7日(日)

集合：午前 8 時 15 分、東武日光線 板倉東洋大前駅。または午前 8 時 35 分、思い出橋 駐車場。

交通：東武線 新越谷 7:19→春日部 7:36→南栗橋で新栃木行きに乗り換え板倉東洋大前 8:10 着。または JR 宇都宮線 大宮 7:03→栗橋 7:38 着後、東武線下りに乗り換え。

解散：午前 11 時 30 分ごろ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担当：佐野、入山、植平、佐藤(宏)、進士、野口

見どころ：谷中湖ではコアジサシ、ヨシ原ではコヨシキリやオオセッカを探します。ヨシゴイやカッコウも期待です。

その他：とにかく暑くなります。熱中症対策は万全に！ 天候によってコースを変更します。

越谷市・サギのコロニー観察会

期日：7月13日(土)

集合：吉川市吉川、中川水道橋下。

交通：JR 吉川駅北口、茨急バス③乗り場 16:50 発で「川富」下車、進行方向の交差点を左折徒歩 100 m。その後も約 20 分間隔でバス運行。駐車場無し。

解散：日没 18:59 ころ、現地です。

担当：橋口、佐野、山部

見どころ：中川右岸(越谷市)のサギのコロニーを対岸の吉川市側から定点観察します。コサギ、アマサギ、チュウサギ、ダイサギ、アオサギ、ゴイサギが数百羽集合しています。定点観察なので集合時間に関係なくご参加ください。

室内講座「野鳥の羽」

日時：7月14日(日) 午後 2 時受付開始。

会場：東大宮コミュニティセンター。

交通：JR 宇都宮線 東大宮駅下車、西口から徒歩 3 分。

※駐車場が少ないため公共交通機関の利用をお願いします。

担当：菱沼(一)、石塚(敬)、井上、近藤

見どころ・聞きどころ：夏の暑い中、鳥見も大変という方のための室内講座です。

講座内容：羽の基礎知識、羽の観察、羽を拾う楽しみなど。

その他：予約は不要です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月20日(土) 午後 3 時～4 時ころ

会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月21日（日）

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

交通：JR 北浦和駅東口、正面信号を左側から渡り、50m先左手バスターミナルから東武バス「さいたま市立病院」行き 8:23 発で終点下車。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：小林(み)、青木、浅見(徹)、浅見(健)、楠見、小菅、畠山

見どころ：鳥の親子連れが見られる季節。スズメ、シジュウカラ、ムクドリ、カラス…三室生まれの子供たちに会いに行きます！

長野県・乗鞍～上高地探鳥会(要予約)

期日：7月27日(土)～28日(日)

詳細は、6月号をご覧ください。

狭山市・人間川定例探鳥会

期日：7月28日（日）

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交通：西武新宿線 本川越 8:43 発、所沢 8:38 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、佐藤(久)、島崎、鈴木(秀)、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本

見どころ：鳥の少ない季節ですが、今年生まれた若鳥たちに会えるかもしれません。

(p6に「はみだし行事案内」があります。)

探鳥会における熱中症対策ガイドラインについて

普及部

昨年は、梅雨明け以降、異常な猛暑が続きました。テレビなどで「身の危険を及ぼす暑さです。不要不急の外出は控えてください」という注意喚起が連日聞かれたことは記憶に新しいところです。

そこで、普及部では猛暑下で探鳥会をどのように運営するかについて検討してまいりました。その結果、行事案内の冒頭に「悪天候の場合、探鳥会は中止です」と記載されていますが、この悪天候に「猛暑」も含めることとして、以下のような熱中症対策ガイドラインを昨年7月に作成しました。

【熱中症ガイドラインの概要】

- ・ 探鳥会前日に発表される、開催地周辺の当日の熱中症情報(暑さ指数・WBGT*)で、開催の可否を判断する。
 - ・ 具体的には通常の午前半日の探鳥会では、9時と12時時点の暑さ指数に着目。
 - ①「危険」(WBGTが31℃以上)の場合(9時または12時時点のいずれかでも、以下同様)
：探鳥会は原則中止とする。
 - ②「嚴重警戒」(同28℃以上31℃未満)の場合
：探鳥会はメインリーダーの判断によって中止する。または時間短縮・コース変更を行う。
 - ③「警戒」(同25℃以上28℃未満)の場合
：探鳥会では参加者に注意喚起し、時間短縮、コース変更も検討する。
- (*)暑さ指数は湿球黒球温度でWet Bulb Globe Temperature。単位は「℃」、「気温」だけでなく「湿度」と「日射輻射」など周辺の熱環境を取り入れた指数。気象庁「暑さ指数」および日本気象協会「熱中症情報」として3時間ごとの推移を発表。

探鳥会に参加する場合は、前日に熱中症情報をチェックしてみてください。中止の場合は可能な限り当会HPにもその旨を掲載する予定です。また、中止の場合でも集合場所にリーダーが出向いて「中止」をお伝えします。

引き続き事故や怪我のない安全で楽しい探鳥会の運営に努めてまいりますので、会員の皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

(文責 長野誠治)



行事報告

2月3日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 28(会員23)名 天気: 快晴

コジュケイ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ オオタカ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ カケス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ ハクセキレイ ビンズイ カワラヒワ シメ アオジ (34種) (番外: ガビチョウ) 入口付近で亜種ホオジロハクセキレイが現れる。小鳥の囀りで中々前に進めない。西田沼の水鳥は皆無。沼の東側松林でアオゲラを発見。ふれあい広場で数羽のアオジを見た後、細道を進む。通路にルリビタキとシロハラが出現。更に進むとアオゲラとカケスが頭上を飛び交う。記念広場で漸くビンズイに巡り会う。山田大沼は水鳥の数や種類が少なく、ハシビロガモの回転採餌は一つだけ。(鈴木秀治)

2月3日(日) 北本市 石戸宿

参加: 49(会員42)名 天気: 快晴

キジバト バン ハイタカ オオタカ カワセミ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (29種) (番外: ガビチョウ) 開会挨拶中に上空にハイタカ。エドヒガンザクラの前で、雑木林の高部にエナガ2羽。続いてシジュウカラ、メジロ、コゲラ。公民館口近くでアトリの群れ。シメ、ビンズイも。高台から降りて、高尾の池でカワセミ。梅林隣の池で水浴びするのはツグミ。北里の森沿いの湿地でカシラダカ。群れて採餌中。高尾の池はなぜかバンのみ。中央の島のヨシに飛んで来て止まったベニマシコを順光でじっくり観察。(吉原俊雄)

2月3日(日) 北本市 石戸宿 Beginner

参加: 35(会員4)名 天気: 快晴

キジバト クイナ バン ハイタカ カワセミ コゲラ アオゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ツグミ ジョウビタキ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (21種) 予想を上回る参加者で嬉しい悲鳴。センター脇ではモズ、アオジ、セグロセキレイ。ハイタカも飛んだ。林に入るとシジュウカラやシメ。東屋付近ではツグミやホオジロなど。梅林付近ではカシラダカとアオジの群れ。よく見るとクイナが! 嬉しい出会い。東屋付近まで戻るとベニマシコの♂♀が出てくれた。高尾の池ではカワセミ。みんなスコープでじっくり観察。大トリでカワセミに会えて皆さん満足そう。(廣田純平)

2月3日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 49(会員40)名 天気: 晴

キジ コハクチョウ オオハクチョウ オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン ユリカモメ トビ チュウヒ ノスリ カワセミ アリスイ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (53種) (番外: ドバト) 芝川沿いではアオジやシメなど冬鳥が勢揃い。ベニマシコも皆でじっくり観察。調節池ではオオハクチョウ5羽とコハクチョウ1羽が休憩中。チュウヒが何度も舞ってくれた。ヨシ原でオオジュリンが採餌していると、シジュウカラが横取りするハプニング。(大井智弘)

2月9日(土) さいたま市 大宮市民の森

雪のため中止。

(青木正俊)

2月9日(土) さいたま市 大宮市民の森 Beginner

雪のため中止。

(石塚敬二郎)

2月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 37(会員34)名 天気: 晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト アオサギ ダイサギ トビ オオタカ ノスリ コゲラ アカゲラ ハヤブサ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ トラツグミ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ (34種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 土手を歩くといろいろな小鳥たち、幸先の良い出足。河原に出るとダイサギ、アオサギ。上空にはハヤブサ、トビ、ノスリ、オオタカが舞っていた。野鳥の森の入り口から大橋の下の道で久しぶりのトラツグミがアオジと同時に現れた。森の中でも数は少ないがいつもの種類は鳴いていた。池の周りではミヤマホオジロ、アオジ、コゲラなどが出た。(茂木幸蔵)

2月11日(月、祝) 狭山市 智光山公園

参加: 30(会員27)名 天気: 曇

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ キジバト カワウ アオサギ オオバン コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ミソサザイ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ アオジ (28種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 鳥影が薄く静かな林地を歩いていると、上空で5~6羽のアオサギが群舞。見上げる樹上ではハシブトガラスが早くも巣作り中。時節の移ろいが早過ぎる。渇水で半分近く干上がった池に、ヒドリガモ、マガモが窮屈そうに浮いていた。総じて冬鳥が少ないなか、目立ったのはシメくらいか…。「如月の 寒風の中早々と 巣作り 急ぐカラスもありて」(石光 章)

2月14日(木) 加須市 加須はなさき公園

参加: 23(会員22)名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト バン オオバン トビ オオタカ ノスリ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ

アオジ (27種) (番外: ドバト) 始まって間もなく、トビが強風に流されず飛ぶ。ついでオオタカも。青毛掘川でオオバンとバンが、土手で本日の目玉のツグミを観察。ホオジロ、カシラダカ、カワラヒワ等も。園内でヒドリガモの群れ、シメのホッピングを観察。芝生でハクセキレイとセグロセキレイ。身近な鳥を楽しめた。(長嶋宏之)

2月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ポランティア: 9名

海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、志村佐治、藤掛保司、松村禎夫、三ツ矢正安、吉原早苗、吉原俊雄

2月16日(土) 上尾市 丸山公園

参加: 36(会員34)名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ トモエガモ カイツブリ キジバト カワウ ダイサギ オオバン トビ ハイタカ オオタカ ノスリ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (39種) (番外: ドバト) 鳥の出順調。初めの池でトモエガモ。見事な♂で、当地では初。滝の池のキセキレイで、今回も3種揃い踏み。林間広場で、アトリにシメにツグミ。学習館裏ではベニマシコにシロハラ、カシラダカ。外周の小径ではアオジにルリビタキ、上空にハイタカ、オオタカ。土手の上で、ノスリに対面。(近藤龍哉)

2月16日(土) さいたま市 芝川第一調節池 Young

参加: 45(会員28)名 天気: 晴

コジュケイ キジ オカヨシガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン ユリカモメ セグロカモメ オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタ

キ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ アオジ オオジュリン (49種) (番外: ドバト) 一部の人間たちにはミニ渡良瀬と称される芝川第一調節池。スタート地点ではチョウゲンボウも確認できた。湖面のカモ類は9種と多かったが、残念ながらハクチョウ類はこの日は居なかった。池に面した場所では、木の芽を食べるベニマシコの♂♀を全員が見られた。最後はオオタカが清掃工場付近を旋回し、非常に充実した探鳥会だった。(高崎康晃)

2月17日(日) さいたま市 三室地区

参加: 34(会員27)名 天気: 晴

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト ゴイサギ アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン タシギ セグロカモメ オオタカ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ エナガ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ アオジ (31種) (番外: ドバト) 気象庁によれば最大瞬間風速は10m/s超! こうなると、遮蔽物の無い見沼たんぼでの観察は厳しい。飛んでいたサギ類やオオタカ、セグロカモメは一瞬で目の前を通り過ぎてしまった。そんな中、主役をつとめてくれたのはタシギ。普段は物陰に隠れるようにいるのだが、芝川で堂々と採餌。(須崎 聡)

2月17日(日) 志木市 柳瀬川

参加: 35(会員27)名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン イカルチドリ タシギ イソシギ カワセミ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ シメ (32種) (番外: ドバト) 土手に上がるとコサギの群れの中にダイサギ、鉄橋下にはオナガガモ。川の中ではヒドリガモが目立つ。富士見橋下流は川の浚渫と砂利の除去工事。水谷田圃はスズメ、モズにタシギやシメが混じりカワラヒワやタヒバリも現れ、上空ではヒバリが囀っていた。何か所かの中洲ではイソシギ、キセキレイが歩き、イカルチドリはうずくまっている。

栄橋上流ではオオバンが増えている。新河岸川との合流点は護岸工事中。強い風で猛禽とは出会えず、護岸工事などで条件の悪い中、様々な鳥を観察した。(鈴木秀治)

2月21日(木) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 55(会員49)名 天気: 晴

ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ トビ コゲラ アカゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ ハクセキレイ ビンズイ カワラヒワ シメ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (38種) (番外: ガビチョウ) 風の強い日。心配したが、開始間もなく樹林を行き交うコゲラ、ヤマガラ、シジュウカラ、エナガ、メジロなどが次々と出た。見頃となった梅林ではフクジュソウも咲き、ジョウビタキやシメの姿があった。風音の中にキクイタダキの気配、赤松の上の方に姿がチラチラ見えた。ルリビタキは前回と同じエリアだったが、今回は♂ではなく♀タイプであった。山田大沼のカモは少し寂しかったが、ハシビロガモやコガモの羽衣が見事であった。(中村豊己)

2月23日(土) さいたま市 岩槻文化公園

参加: 53(会員47)名 天気: 快晴

キジ ヒドリガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ オオバン イカルチドリ タシギ イソシギ トビ オオタカ ノスリ コゲラ モズ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (41種) 出発早々水場でヤマガラが出迎えてくれた。元荒川の岸边ではイソシギ、タシギ、イカルチドリをじっくり観察。100羽近くのヒドリガモの群れも久々に見る事ができた。戻りの旧テストコースでは真っ赤なオスを含む数羽のベニマシコを確認。快晴・微風で気温も高めとなり、一足早く春の探鳥会を楽しめた。(長野誠治)



連絡帳

●夏の危険対策いろいろ

夏は熱中症だけではなく、虫などの活動が活発になり、様々な危険に対する注意が必要な季節です。

涼しい所でさて一休みしようと、草むらに直接衣類やザックなどを置いたり、人が座ったりすると、ダニに取りつかれてしまう危険があります。手・足・首などには虫よけ剤を塗り、シートや携帯椅子などで、体や持ち物を草・葉・地面から確実に隔離してください。昨年8月号本欄でも注意喚起したマダニが媒介するウイルスによる重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) の危険があります。

シートを敷いて荷物を置き、ザックを開けて、例えば「鳥が出たよ」と呼ばれたりしてその場を離れる時、短時間でも必ずジッパーを締めましょう。公園ではカラスが食べ物を狙っているかもしれないし、場所によっては小動物などが入り込んでしまう危険があります。

飲み物を飲んでいて、ボトルを手から離す時は、必ずふたを閉めてください。甘いもの好きのスズメバチが知らないうちに入っていたのを飲んでしまい、大変な目に会った実例があると聞いています。

様々な危険を注意すれば、夏は生命あふれるすばらしい季節です。存分に楽しみましょう。

●会員数は

6月3日現在 1,586 人です。

活動と予定

●5月の活動

5月11日(土) 6月号校正(海老原教子、海老原美夫、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

5月18日(土) 『しらこぼと』6月号をpdf化して本部総務室に送信。全国配布を依頼した(海老原美夫)。

5月19日(日) 役員会(司会:小林みどり、各部・委員会等の報告、行事予定の追加、次年度役員についての話し合い、など)。

5月20日(月) 『野鳥』誌と同封発送しない会員向け『しらこぼと』6月号を、郵便局から発送(海老原美夫、山部直喜)。

●7月の予定

7月6日(土) 編集部会。普及部会。

7月13日(土) 8月号校正(午後4時から)。

7月20日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

7月21日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

この編集後記を書いているのは、夏真っ盛り(?)の“5月”。異常な暑さで、北海道では暑さでレールが曲って、列車が遅れたとか。地球温暖化の影響がいよいよ顕わになってきた感がある。熱中症対策の記事が今号に載ったが、自然のうねりに先手を取られた。今日(5/27)、13時のさいたま市のWBGTは、28.1℃。嚴重警戒レベルだった。(浅見)

1ヵ月後の今になってみれば、今年度を「令和元年度」と呼ぶのは当たり前になっている。前月号本欄は「下手な考え休むに似たり」の見本だったが、結果良けりゃ、ま、いいか。いろいろ気を使っているんです。(海)

しらこぼと 2019年7月号(第424号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org
編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社